

教科	国語科	学年	1 学年	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	-----	----	------	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	・国語を通して内容や事柄を適切に表現する能力や、国語の使い方や内容や事柄を正確に理解する能力を身につけ、伝え合う力を高めること。 ・言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養い、国語の重要性に対する認識を深めつつ、国語を愛護し、尊重して、国語そのものをいっそう優れたものに向上させていこうとする意識や態度を育てること。
	具 体 目 標 (到達目標)	・国語の学習に関心を持ち、授業や家庭学習など積極的に取り組む。 ・目的や場面に応じて工夫して話す力や、話し手の意図を考えながら聞く力を身につける。 ・構成を考えて的確に書く力を身につけ、進んで文章を書こうとする態度を育てる。 ・様々な文章を読み、内容を的確にとらえる力を身につける。 ・言葉のきまりや特徴を理解し、適切に表現する力を身につける。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	「言葉の働き」「話し言葉と書き言葉」「漢字」「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「表現の技法」など、言葉の特徴や使い方に関して評価する。
		思考力、判断力、表現力	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関して評価する。
		主体的に学習に取り組む態度	国語科の学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価する。 学習内容に即して設定する観点であるため、いずれの単元にも位置づけることとする。
	評価の方法		○定期試験 ○課題(作文・書写作品など) ○活動観察 ○小テスト ○振り返りシート

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書 ワーク 漢字学習ワーク ファイル
	学 習 形 態		一斉学習 少人数グループ学習 個別学習
	学 習 の て び き	学 校	【授業】 先生の話をよく聞き、何が重要かを考えながら、話に集中しましょう。また、黒板に書かれたことをプリント等に写すだけではなく、先生の言葉や自分で考えたことをメモしておくことが大切です。 【日常】 朝の読書では必ず集中して本を読みましょう。また、場面や相手に適した言葉づかいを常に意識しましょう。生活ノートの短い記録も毎日最後まで書くように意識して行えば表現力アップに大変役立ちます。
		家 庭	【予習】 教科書の本文を何度もよく読み(音読がよい)、新しく出てきた漢字や語句を調べて大まかに内容をとらえます。 【復習】 教材ごとに漢字や語句を確実に覚えます。中学校では、小学校で学習したのと同数の漢字を、半分の期間である3年間で学習します。本文も何度も読み、授業を思い出しながらノートを見直しましょう。授業があった日には必ず復習しましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	2 1 4	ガイドンス 朝のリレー 野原はうたう 声を届ける / 書き留める	・オリエンテーション ・詩の内容に注目し好きな詩を選んで群読します。 ・発表の仕方など、学習の仕方について理解します。
5	4 4 2 4 1	シンジュン 書写(毛筆～「若木」、「地球」) 情報を的確に聞き取る わかりやすく説明しよう [漢字1]漢字の組み立てと部首	・登場人物の気持ちを表す表現や心情の変化をとらえます。 ・毛筆の楷書の基本的な筆遣いを理解します。 ・要点を押さえてメモに取る練習をします。 ・情報を整理し、わかりやすい構成を考えて書きます。 ・漢字の組み立てと部首の意味を理解します。
6	4 5 4 3 4	書写(硬筆) ダイコンは大きな根? / ちょっと立ち止まって 話の構成を工夫しよう 文法の扉1 言葉のまとまりを考えよう。 情報を集めよう	・硬筆の楷書の基本的な筆遣いを理解します。 ・段落の役割と関係に注意して、内容を理解します。 ・話の構成を考え、文章にまとめます。 ・言葉のまとまりを理解し、伝わりやすい表現を理解します。 ・目的を持って情報を集め、情報を整理し文章にまとめます。
7	3 2 2 3	詩の世界 比喻で広がる言葉の世界 言葉1 指示する語句と接続する語句 読書を楽しむ	・詩の表現の特徴をとらえ、描かれた情景を想像します。 ・言葉について考えを深めます。 ・指示する語句と接続する語句を理解します。 ・作品を読み、読書紹介の方法を学び、本の紹介をします。
8	5	大人になれなかった弟たちに・・・	・登場人物の立場から自分はどう考えるか想像します。
9	5 3 2 4	星の花が降るころに 聞き上手になろう/ 項目を立てて書こう 他 [推敲]読み手の立場に立つ 書写(毛筆、小筆～50音)	・情景を想像し、人物の気持ちや展開に注意して読みます。 ・事柄、目的、相手に応じて項目を考え、工夫をします。 ・毛筆でひらがなと漢字の調和を取る工夫をして書きます。
10	3 5 5 1	言葉2 方言と共通語 / 漢字2 漢字の音訓 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 根拠を示して説明しよう資料を引用してレポートを書く [話し合い]話し合いの展開を捉える。	・全国の方言、漢字の音と訓について理解します。 ・文章中の事実とそれにもとづく筆者の考えを読みます。 ・集めた情報を工夫して整理し、わかりやすく伝えるために書き方や構成を工夫します。
11	6 6 4	いろは歌 / 蓬萊の玉の枝 今に生きる言葉 / 漢文を読む 書写(毛筆)	・古文の仮名遣いやリズムに注意し、行動や心情をとらえます。 ・中国の古典、漢文の言い回しに読み慣れるようにします。 ・毛筆の行書の筆遣いを理解します。
12	4 2 5	「不便」の価値を見つめ直す 助言を自分の文章に生かそう 文法への扉2 言葉の関係を考えよう / 読書に親しむ	・中心となる文に着目しながら、文章の要旨を捉えます。 ・話し合いをよりよく進めるため具体的な発言方法を考えます。 ・文節どうしの関係を理解します。
1	6 8	少年の日の思い出 文法への扉3 単語の性質を見つけよう / 随筆二点	・場面展開や描写に注意して読み、心情の変化をとらえます。 ・単語の分類について理解します。
2	4 3 4	構成や描写を工夫して書こう 言葉3さまざまな表現技法 / 漢字3漢字の成り立ち 書写(硬筆～行書)	・言葉の並べ方の工夫や比喻などについて学習します。 ・漢字の成り立ちについて理解します。 ・行書の特徴をとらえながら硬筆で書きます。
3	3	一年間の学びを振り返ろう	・一年間の学びを振り返り、来年度に意識を向けます。
計	140		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	社会科	学年	1 学年	標準授業時数	105 時間(週3 時間)
----	-----	----	------	--------	---------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
		思考力、判断力、表現力	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
	評価の方法		○定期試験(全4回) ○小テスト(単元テストなど) ○提出物(授業ノートやレポート、振り返りシートなどの記述内容) ○活動観察(グループ学習や全体交流での行動や発言内容など)

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		○教科書(東京書籍) ○地図帳(帝国書院) ○社会の自主学習(新学社) ○授業プリント(授業者作成) ○授業ノート(各自で用意すること)
	学 習 形 態		一斉授業を基本とし、場面に応じてグループ学習を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	○一回一回の授業を大切にすること。以下の問いを意識して授業を受けましょう。 →「授業準備はできたか?/提出物の提出期限を守ることができているか?」 →「何を学ぶのか/何を考えるのか(“めあて”など)が分かっているか?」 →「友達がどんな考えを持っていて、自分の考えとどう違うのかなどに興味を持って、友達の考えを聞いたり、友達に自分の考えを伝えたりすることができているか?」 →「分からないこと(疑問など)を、先生や友達に質問することができているか?」
		家 庭	○授業の予習と復習をすること。以下の問いを意識して家庭学習をしましょう。 →「授業で何を学んだか?/何が理解できたか?」 →「授業で学んだことを、どう今後の学習や生活に生かすか?」 →「どうすれば、次の授業でもっとしっかり考え、意見を言うことができるか?」

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	13	【地理的分野（55時間）】 ●第1編第1章 世界の姿 【地球の姿を見てみよう～地球儀と世界地図を比べてみよう】 ●第1編第2章 日本の姿 【日本の位置～日本の都道府県】	・オリエンテーション（地理）。 ・地球儀や世界地図を活用して、大陸と海洋の形状や分布を取り上げ、地球規模での位置関係を捉えるための知識と技能を身に付けることができる。 ・日本の国土の位置および領域の特色を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観することができる。
5	12	●第2編第1章 世界各地の人々の生活と環境 【雪と氷の中で暮らす人々～人々の生活に根付く宗教】	・写真や雨温図、統計資料、映像資料等を活用し、地域で異なる自然環境の違いを捉えるとともに、その地域の課題について主体的に追究することができる。
6	15	●第2編第2章 世界の諸地域① 【アジア州～アフリカ州の学習】 【アジア州をながめて～発展に向けた課題】 ◎平和教育プログラム	・世界の諸地域の自然環境、産業、生活、文化、歴史的背景などの特色について概観し、地球儀や地図帳などを活用しながら、諸地域の基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。 ・平和について考えることができる。
7	15	●第2編第2章 世界の諸地域② 【北アメリカ州～オセアニア州の学習】 【北アメリカ州をながめて～人々による他地域とのつながり】	・世界の諸地域で見られる地球的課題を追及していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現することができる。
9	7	【歴史的分野（50時間）】 ●1章 歴史へのとびら 【時期や年代の表し方～時代の特色のとらえ方】	・オリエンテーション（歴史） ・歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりする活動を通して、時代区分や時代の移り変わりに気付くことができる。
10	8	●2章 古代までの日本①【前半】 【人類の出現と進化～大王の時代】	・世界の古代文明や宗教が生まれたこと、日本列島において人々の生活が始まり、やがて国家が形成されていった過程のあらましを、東アジアの動きと関連づけて理解することができる。
11	8	●2章 古代までの日本②【後半】 【聖徳太子の政治改革～国風文化】	・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治を展開した古代までの日本の流れを大きく捉えることができる。
12	5	★11月分の続き ◎租税教室	★11月分の続き ・今と昔の税制を比較することができる。
1	8	●3章 中世の日本①【前半】 【武士の成長～鎌倉時代の文化と宗教】	・武家政権が誕生して、武士の支配が次第に全国に広まり武家社会が発展していったという大きな時代の流れを理解することができる。
2	8	●3章 中世の日本②【後半】 【モンゴル帝国とユーラシア世界～室町文化とその広がり】	・モンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割など、東アジア世界との交流が国内の政治や社会、文化に影響を及ぼしたことを理解することができる。
3	6	★2月分の続き ●1年間の総まとめ	★2月分の続き ・1年間の学びを振り返ることができる。
計	105		

【注意】 内容が前後することもあります。

教科	数学科	学年	1 学年	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	-----	----	------	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。 (2) 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。 (3) 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。 (4) 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		思考力、判断力、表現力	・数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。
		主体的に学習に取り組む態度	・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。
	評価の方法		○定期試験 ○小テスト ○まとめ・振り返りシート ○活動観察 ○レポート

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書（学校図書）、ワーク、授業プリント、まとめ・振り返りシート
	学 習 形 態		数学の知識に関しては一斉授業を行い、技能、思考、判断、表現する課題に関してはグループ学習を中心として行う。
	学 習 の て び き	学 校	・1つ1つの授業のめあてを意識し、その授業のまとめに向けて授業に取り組む。 ・授業は毎回授業プリントを配付し、授業プリントには記入や計算をすること以外に自分にとって必要なことをメモしたり色付けしたりして、工夫する。 ・先生やグループ生徒の解き方や考え方をよく聞く。特に自分以外の生徒の考えを聞き、自分にとってよりわかる解き方や考え方を取捨選択する。 ・章や単元において必要な基礎知識の小テスト（4回程度1セット）を行う。年間で25セット程度行う。 ・毎回、授業の振り返りを行い、授業でわかったことや気づいたことを自分のことばで説明する。
		家 庭	・小テストの学習を行う。毎回、同じ小テスト（解答付き）のコピーを配付する。 ・小テストでもの足りないときには、ワークでさらに学習を深める。解答も配付する。 ・教科書やワークで紹介されている動画をタブレットを利用して学習を深める。 ・各章や各単元が終わるごとに授業プリントとまとめ・振り返りシートの整理を行い、もう一度、見返すことで自分のわかっていることやわからなかったことを振り返る。

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	28	1章 正の数・負の数 1節 正の数・負の数 ① 符号のついた数 ②数の大小 (小テスト①②) 2節 加法・減法 ①加法 ②減法 (小テスト①②) ③加法と減法の混じった計算 3節 乗法・除法 ①乗法 ②除法 ③四則の混じった計算 ④正の数・負の数の利用 (小テスト①②③) 4節数の集合 ①数の集合と四則 ②素数 (小テスト②)	・オリエンテーション(授業の受け方など) ・正の数、負の数の意味を理解する。 ・正負の数の大小関係を、不等号を用いて表す。 ・加法、減法の規則を理解し、計算をする。 ・加減の混じった式を、和の形になおして計算する。 ・乗法、除法の規則や累乗の意味を理解し、計算する。 ・() や、四則の混じった計算の順序を理解し、計算する。 ・正負の数を利用して能率よく平均などを求める。 ・数の集合について四則計算の可能性と関連付けて整理する。
5			
6			
7	19	2章 文字と式 1節 文字式 ① 文字を使った式 ②文字式の表し方 (小テスト②) 2節 式の計算 ① 1次式の計算 ②文字式の利用 (小テスト①)	・数の代わりとしての文字の意味を理解する。 ・いろいろな数量を、文字式の表し方のきまりにしたがって表す。 ・文字に数を代入した場合の式の値を求める。 ・1次式と数の乗法、除法の計算をする。 ・1次式の加法・減法の計算をする。 ・いろいろな数を、文字を使って表す。 ・いろいろな数量の関係を等式や不等式で表す。
8	18	3章 方程式 1節 方程式 ①等式と不等式 ②方程式 ③方程式の解き方 (小テスト③) 2節 1次方程式の利用 ① 1次方程式の利用 ②比例式 (小テスト②)	・方程式の解、方程式を解くことの意味を理解する。 ・等式の性質を理解し、それを利用して簡単な方程式を解く。 ・移項の意味を理解し、その考えを利用して方程式を解く。 ・やや複雑な形の方程式を解く。 ・文章題を、方程式を利用して解く。 ・比例式の性質を理解し、手際よく比例式を解く。
9	20	4章 比例と反比例 1節 関数 ①関数 2節 比例 ① 比例と式 ②座標と比例のグラフ (小テスト①②) 3節 反比例 ① 反比例と式 ②反比例のグラフ (小テスト①②) 4節 比例と反比例の利用 ①比例と反比例の利用	・ともなって変わる2つの変数 x 、 y について、 y が x の関数であることの意味を理解する。 ・比例関係にある2つの数量を見だし、比例の式を理解する。 ・比例の式から表をつくり、比例のグラフをかく。 ・対応する1組の x 、 y の値から、比例の式を求める。 ・反比例の意味を理解する。 ・反比例の変化や対応の特徴を理解する。 ・反比例の式から表をつくり、反比例のグラフをかく。 ・比例や反比例の関係にある2つの数量を見だし、問題を解決する。
10	20	5章 平面図形 1節 いろいろな角の作図 ② 90° の角の作図 ② 60° 、 30° の角の作図 ③作図の利用 2節 図形の移動 ①図形の移動 (小テスト①)	・直線、線分の意味や、垂直、平行、角の表し方を理解し、垂線、垂直二等分線、角の二等分線の作図をする。 ・平行線と面積の定理を理解し、それを用いて多角形を等積変形する方法を考える。 ・平行な直線、円の接線、円の中心などを作図するために、基本的な作図の方法を活用する。円の中心、円の接線の作図をする。 ・平行移動、対称移動、回転移動について理解する。
11			
12			

1	21	6章 空間図形 1節 空間図形の見方 ①いろいろな立体 ②直線や平面の位置関係 ③面が動いてできる立体 ④立体の展開図（小テスト①②③④） 2節 図形の計量 ①立体の表面積 ②立体の体積（小テスト①②）	・角錐、円錐、正多面体の意味やその種類について理解する。 ・空間における直線と直線、直線と平面、平面と平面の位置関係について理解する。 ・回転体について理解する。 ・立体の投影図、展開図について理解する。 ・円の面積と円周の長さを、文字 π を用いて表す。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求める。 ・柱体や錐体の表面積、体積の求め方を理解し、それらを求める。 ・球の体積と表面積を求める。
	14	7章 データの活用 1節 資料の傾向の調べ方 ①データの整理 ②相対度数 2節 データにもとづく確率 ①データの傾向の読み取り方 ②データの活用	・資料を度数分布表に整理して、資料全体の傾向を調べる。 ・各階級の相対度数を求め、2つの資料の分布を比べる。 ・累積度数の必要性を理解し、求める。 ・代表値および平均値、中央値、最頻値の意味を知り、資料からそれらを求める。 ・度数分布表をもとに、階級値を用いて平均値を求める。 ・起こりやすさを、相対度数をもとにして考える。
計	140		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	理科	学年	1	標準授業時数	105時間(週3時間)
----	----	----	---	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を次のとおり育成すること。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	・学習する内容に興味・関心をもって取り組む。 ・毎回の授業のポイントについて理解する。 ・観察・実験の用具の正しい使い方や記録・分析ができる。 ・観察・実験の結果から、法則性を見つけ、原理を理解し、それを使って色々なことに応用することができる。 ・学習した内容についての語句・考え方を覚える。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	自然の事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけているか。
		思考、判断力、表現力	自然の事物現象について問題を見だし見通しをもって観察実験などを行い、自然の事物・現象における規則性を見だしで表現しているなど、科学的に探求しているか。
		主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしているか。
	評価の方法		○定期試験 ○課題テスト（パフォーマンステストも含む） ○実験レポート ○ふりかえりシート ○活動観察など

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書（啓林館） 理科探求ノート（とうほう）よくわかる理科の学習1（明治図書） 理科資料（とうほう）
	学 習 形 態		・教室や理科室での一斉授業やグループ学習（実験を含む）を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	①授業道具を忘れない（教科書・学習ノート・ファイル） ②板書事項を整理してノートに書き取る。その他大切だと思われることはメモしておく。 ③観察や実験の時は内容や手順をよく理解し、協力しあっておこなう。 ④発問に対して積極的に挙手して発表するよう努力する。 ⑤授業の中でわからなかった点は必ずその時間に理解するようにしておく。それでも理解できない場合は先生に聞いてわからないままにしておかない。 ⑥仲間との話し合いを通して、自分の考えを深める。

	家 庭	① その日に学んだことを復習する。 ② 次に学習する教科書の本文を読んでくる。その中で疑問点をもって授業にのぞむようにする。 ③ レポートや提出物は期限を守って提出できるようにしておく。
--	-----	---

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	5	【単元】自然の中に生命の営みを見つけてみよう	・オリエンテーション(授業の受け方、家庭学習の仕方) ・観察のしかたを身につけよう
5 6	23	【単元】いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類 動物園・水族館の展示方法	・花のつくりとはたらき ・マツにはどのような花が咲くか ・種子をつくる植物をなかまわけ ・種子をつくらない植物のなかまわけ ・動物の体と体のつくり ・脊椎動物のなかま ・無脊椎動物のなかま
7	28	【単元】身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化 古くて新しいガラスの世界	・物質はどのようにして区別できるか ・重さや体積から物質の区別しよう ・気体はどのようにして区別できるか ・身のまわりのものから発生する気体 ・物質は水にどのようにとけるか ・水溶液の濃さを表そう ・水に溶けた物質をとり出すことができるか ・物質のすがたはどのように変わるのか ・状態変化と温度の関係 ・混ざり合った物質を分ける
11 12 1	28	【単元】光・音・力による現象。 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象 自動運転を支える光と音の科学	・光の性質 ・屈折の仕組み ・凸レンズの働きを調べよう ・音の性質 ・音はどのようにして伝わるか ・力の性質 ・力の大きさはどのようにすればはかれるか ・力はどのようにして表すか ・大気圧のはたらきかた ・2力のつりあい
2 3	21	【単元】活きている地球 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地 昔の地球を読み解く	・火山の形とマグマ性質 ・マグマからできた岩石を調べよう ・地震のゆれの伝わり方 ・地震はどのようにして起こるか ・自然の恵みと火山災害・地震災害 ・化石から分かること ・地層はどのようにしてできるか ・地層をつくる岩石 ・大地の変化を推測しよう ・地球上の大地形はどのようにしてできるか
計	105		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	音楽	学年	1 年	標準授業時数	4 5 時間(週 1. 3 時間)
----	----	----	-----	--------	-------------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・曲想と音楽の構造や背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
		思考力、判断力、表現力	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	評価の方法		活動観察、定期試験、実技試験（歌唱、アルトリコーダー）、提出物

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		中学生の音楽Ⅰ（教育芸術社）、中学生の器楽（教育芸術社）、資料集（正進社）
	学 習 形 態		音楽室での一斉授業を基本とし、場面に応じてグループ学習を行う。
	学 習 の て び き	学 校	・授業の準備を確実にやり、落ち着いて授業開始を待つ。 ・課題や目標を意識し、集中して授業に取り組む。 ・歌唱、アルトリコーダーの練習は、周りの音を聴きながら、丁寧に取り組む。 ・提出物は、指示された時に、授業時間内に提出する。 ・学習プリントは、必ずファイルに保管する。 ・楽器を適切に扱う。
		家 庭	・いろいろなジャンルの音楽に親しもう。 ・アルトリコーダーの練習に取り組もう。（実技試験の前、長期休業中など）

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	4	●音楽に親しむ ●詩と旋律のまとまり	○歌唱「校歌」「We' ll Find The Way」 ・新しい仲間とともに、大きな声で歌う喜びを味わいます。中学校の校歌をしっかりと歌うことで歌に親しみ、歌うことへの自信につなげていきます。 ○歌唱「主人は冷たい土の中に」 ・曲の構成を生かし、表現を工夫します。
5	2	●イメージと音楽	□鑑賞「春」 ・ソネットを手がかりに曲想の変化を感じ取る学習をします。
	2	●詩と旋律のまとまり	○歌唱「赤とんぼ」 ・情景を思い浮かべながら表情豊かに歌うように学習します。
6	5	●演奏する喜び ※音楽の基礎（音名と階名）	◇器楽「喜びの歌」「かっこう」 ・アルトリコーダーの基礎的な奏法を学習します。音名と階名の違いを理解します。
7	3	●合唱の基礎	○歌唱「朝の風に」 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、パートの役割や旋律の重なりを考えながら表現を工夫します。
8			
9	5	●混声合唱の響き ※音楽の基礎（合唱の形態）	○歌唱「文化祭合唱曲」 ・混声合唱の響きを楽しみ、表現の能力を身につける学習をします。また合唱コンクールの取り組みを通して、仲間との合唱に意欲的に取り組みます。
10	4	●詩と曲想	□鑑賞「魔王」 ・音楽の劇的内容や歌唱表現について学習します。
11	4	●演奏する喜び	◇器楽「オーラリー」「アニーローリー」 ・アルトリコーダーの発展的な奏法を学習し、発展的な技能を身につけます。
12	2	●詩と曲想	○歌唱「浜辺の歌」 ・詩と音楽が一体となった美しさを感じとり、表現する学習をします。
	2	●日本の民謡に親しむ	□鑑賞「日本の民謡」 ・民謡が生まれた背景を関わらせ生活との結びつきを学びます。
1	4	●アジアの諸民族の音楽	□鑑賞「アジアの諸民族の音楽」 ・音楽の特徴とその背景と関わらせ、生活との結びつきを学びます。
2	4	●日本の伝統音楽	□鑑賞◇器楽「箏」「越天楽」 ・日本の伝統音楽に親しみをもちます。
3	4	●合唱の喜び	○歌唱 ・2年生に向けてさらに難易度の高い曲に挑む。「カリブ夢の旅」など
計	45		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	美術	学年	1 年	標準授業時数	4 5 時間(週 1. 3 時間)
----	----	----	-----	--------	-------------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようになる。 (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようになる。 (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて表現方法を工夫して表している。
		思考力、判断力、表現力	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○提出物 ○活動観察

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書(光村図書) 感じる表す美術(浜島書店)
	学 習 形 態		一斉授業、少人数グループなど、活動のねらいに応じた形態をとる
	学 習 の て び き	学 校	・授業の準備を確実に行う。 ・仲間と共に学習していることの意識を高く持つ。 ・授業の流れを把握し、準備や後かたづけまで責任をもち、協力して行う。 ・課題や目標を意識し、授業に時間いっぱい精一杯取り組む。 ・安全に行えるように気をつける。 ・提出物は期限を意識し、確実に提出する。
		家 庭	・授業や課題に必要な物を準備する。 ・美術館などで開催される展示などに関心をもち、本物の作品に触れる機会を見いだす。 ・身の回りの”美術”に関心をもち。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	1	・美術って何だろう？	・美術での活動や学習に見通しを立てる。
5	3	・色や光の特徴を知ろう ・色を組み合わせる 色彩の基本 デザインセットの使い方 彩色・混色方法	・色に興味を持つ。 ・色彩の基本的性質を理解し、自分の表現に生かせるようになる。 ・用具の扱い方や着色方法、混色方法及び線の引き方、配色カードの使い方などの基礎的 技能を習得する。
6 7 8 9	14	・デザインって何だろう？ ・文字をデザインする ・文字で楽しく伝える ・印象に残るシンボルマ ーク ・発想を広げる レタリング 発想の仕方 ・美術鑑賞を楽しむ手が かり ・美術館を楽しもう	・デザインが自分たちの生活に溶け込んでいることに気づく。 ・レタリングのもつ特質と制作手順について理解する。 ・発想の方法を学ぶ。 ・デザインされた文字やシンボルマークに関心を持ち、込める意味や伝えたい内容などをもと に主題を生み出す。 ・主題をもとに、形や色、構成などの構想を練る。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 ・美術館の様々な機能や楽しみ方に気づく。 ・鑑賞ルール、鑑賞ポイントを学ぶ。
7	1	・メッセージを伝える (夏休みの課題・ポスタ ー)	・メッセージを広く伝えるデザインに関心を持ち、メッセージを伝える目的や伝える相手、内容 や社会との関わりなどから主題を生み出す。 ・主題をもとに、作品形態や構成、配色やコピーなどの構想を練る。 ・形や色、構成などを工夫して制作する。
9	1	・(鑑)文化祭展示鑑賞	・作者の創造的な表現の工夫を感じ取り、美意識を高め、幅広く味わう。
10	2	・(鑑)風神雷神—受け継 がれる日本の美	・風神雷神図屏風や様々な絵師が描いた屏風を鑑賞し、違いやそれぞれの良さを感じ取る。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品の見方を広げる。 ・作品の造形的な特徴や屏風などの表現形式などを理解する。
10 11	5	・見つめ、感じ取り、描く ・描いてみよう	・形の構造や光の方向など対象を観察する際の観点を理解する。 ・身近なものがもつ美しさやよさに関心を持ち、身近なものを見つけ、感じ取った特徴や、もの に託した自分の思いなどをもとに主題を生み出す。 ・主題をもとに形や色、用具の使い方などの構想を練る。 ・構図や色などを工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。
12 1	13	・生活をいろいろ文様 ・形の世界を知ろう ・版画の楽しみ	・形の構成による効果や形に関する基礎的なことを学ぶ。 ・版の種類や特徴のほか、刃物の使い方、制作過程などについて学ぶ。 ・生活をいろいろ文様に関心をもち、自然物や日用品の形の特徴などから主題を生み出す。 ・主題をもとに、形や色、構成のしかたなどの構想を練る。 ・形や色、構成などを工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。
2 3	5	・自然の形や色を見つめ て ・粘土でつくる	・粘土の特徴や扱い方について学ぶ。 ・自然物の造形に関心をもち、さまざまな感覚を通して捉えた自然物の形や色、質感などをも とに主題を生み出す。 ・主題をもとに、形や色などの構想を練る。 ・形や色などを工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。
計	45		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	保健体育(男子)	学年	1 年	標準授業時間数	105時間(週 3時間)
----	----------	----	-----	---------	--------------

目 標	教科目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
	具体目標 (到達目標)	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評 価 方 法	観 点	運動についての知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身につけている。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに基本的な知識を身につけている。
		運動についての思考・判断・表現	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、健康についての課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。
		主体的に学習に向かう態度	運動における経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
	評価の方法		活動観察(活動の様子)・授業記録の分析(学習プリント・自己評価カード)実技テスト・定期テスト

学 習 方 法	使用教材		教科書(大修館書店) 保健体育学習ノート(大修館書店) 実技資料(大修館書店)
	学習形態		グラウンド・体育館・格技場・多目的ホール・教室での一斉授業やグループ学習を取り入れた形式で行う。
	学習の手引き	学校 ○各先生の指示をよく聞いて、自分の課題や目標を考え、教え合いをしながら、みんなと協力して学習に取り組みましょう。競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけていきましょう。 ○健康・安全に留意して、進んで学習に取り組みましょう。 ○心身の健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組みましょう。 先生の説明をよく聞き、健康・安全の意義を理解し、知識を身につけていきましょう。 家庭 ○教科書などを中心に、運動の技術や種目のルールについて積極的に予習・復習をしましょう。 保健では教科書を読んでおくなどの予習をしておきましょう。 ○保健体育ノートなどで復習をしましょう。 ○プリントやレポートなどに積極的に取り組み、提出しましょう。 ○長期の休みなどには進んで体力づくりに取り組みましょう。	

学習内容

月	時数	単元名・項目	学習内容
4	7	・体づくり運動 集団行動 体ほぐしの運動 体力を高める運動・ラジオ体操 ・体の柔らかさや巧みな動きを高めるため運動 ・力強い動きを高めるための運動 ・動きを持続する能力を高めるための運動	・オリエンテーション(授業の受け方、家庭学習の仕方) ・「体ほぐしの運動」いろいろな運動を友達と楽しく行い、心や体の状態に気づいたり調子を整える。 ・「体力を高める運動」健康に生活するための体力を高める。 ・ラジオ体操やストレッチなどの効果について知る。 ・体育大会の練習を通して集団で行動することの意味を理解し、行動する力を身につける。 ・新体力テストを行い、自分の体力について知る。
	5	・新体力テスト	
5	3	・体育理論	・運動やスポーツの必要性和楽しさ、関わり方、学び方について知る。
	8	・器械運動(マット)	・マットを使って、今自分にできる技を確認し、その技がよりよくできるように練習する。また、新しい技に挑戦し、その技能を高めるように練習する。
6	6	・保健分野 健康の成り立ち(1) 運動と健康(1) 食事と健康(1) 休養・睡眠と健康(1) 体の発育・発達(1) 呼吸器・循環器の発育・発達(1)	調和のとれた生活・心身の発達と心の健康 ※保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。 ・健康とは何かを理解し、どうすれば健康でいられるかを考えながら、調和のとれた生活をめざす。
	8	・水泳	・クロール・平泳ぎの技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができるように練習する。
7	7	・陸上競技(短距離走・リレー)	・短距離走のスタートの技能を身につけ、自己の最大スピードを高めたり、バトンの受け渡してタイミングを合わせたりして、タイムを短縮したり、競争できるようにする。
	10	・球技(バレーボール)	・バレーボールの基本となるパス、トス、サービスなどの技能を身につけ、ルールを理解し、ゲームを楽しむ。
9	10	・ダンス	・リズムダンスの踊りを通して、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊る。
10	8	・陸上競技(長距離走)	・一定の長い距離を走るなかで、自分に合ったペースを見つけ、最後まで走りきれる力をつける。
11	8	・武道(剣道)	・剣道の基本動作(構えと体さばき、打ち方と受け方)を学ぶ。
12	8	・球技(サッカー)	・サッカーの基本となるパス、ドリブル、シュートの技能を身につけゲームに生かせるように練習する。ルールを理解し、ゲームを楽しむ。
1	9	・保健分野 生殖にかかわる働きと成熟(2) 性への関心と行動(1) 知的機能と情意機能の発達(1) 社会性の発達と自立(1) 自己形成(1) 欲求とその充足(1) 心と体のかかわりとストレス(1) ストレスへの対処のしかた(1) リラクセーションの方法(1)	心身の発達と心の健康 ※保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。 ・自分や他者の心と体がこれからどうかわっていくのか、心身の発達の道すじや心の健康についての理解を深める。
2	8	・球技(バスケットボール)	・バスケットボールの基本となるパス、ドリブル、シュートの技能について理解し、ゲームを楽しむ。
3	8		
計	105		

※内容が前後する場合があります

教科	保健体育(女子)	学年	1 年	標準授業時間数	105時間(週 3時間)
----	----------	----	-----	---------	--------------

目 標	教科目標	心とからだを一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
	具体目標 (到達目標)	各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。

評 価	観 点	運動についての知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身につけている。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに基本的な知識を身につけている。
		運動についての思考・判断・表現	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、健康についての課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。
		主体的に学習に向かう態度	運動における経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
	評価の方法		活動観察(活動の様子)・授業記録の分析(学習プリント・自己評価カード)実技テスト・定期テスト

学 習 方 法	使用教材		教科書(大修館書店) 保健体育学習ノート(大修館書店) 実技資料(大修館書店)
	学習形態		グラウンド・体育館・格技場・多目的ホール・教室での一斉授業やグループ学習を取り入れた形式で行う。
	学習の手引き	学校 家庭	○各先生の指示をよく聞いて、自分の課題や目標を考え、教え合いをしながら、みんなと協力して学習に取り組みましょう。競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけていきましょう。 ○健康・安全に留意して、進んで学習に取り組みましょう。 ○心身の健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組みましょう。 ○先生の説明をよく聞き、健康・安全の意義を理解し、知識を身につけていきましょう。 ○教科書などを中心に、運動の技術や種目のルールについて積極的に予習・復習をしましょう。 ○保健では教科書を読んでおくなどの予習をしておきましょう。 ○ワークなどで復習をしましょう。 ○プリントやレポートなどに積極的に取り組み、提出しましょう。 ○長期の休みなどには進んで体力づくりに取り組みましょう。

学習内容

	時数	単元名・項目	学習内容
4	7	・体づくり運動 集団行動 体ほぐしの運動 体力を高める運動・ラジオ体操 ・体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動 ・力強い動きを高めるための運動 ・動きを持続する能力を高めるための運動	・オリエンテーション (授業の受け方、家庭学習の仕方) 「体ほぐしの運動」いろいろな運動を友達と楽しく行い、心や体の状態に気づいたり調子を整える。 「体力を高める運動」健康に生活するための体力を高める。
5	5	・新体力テスト	・ラジオ体操やストレッチなどの効果について知る。 ・体育大会の練習を通して集団で行動することの意味を理解し、行動する力を身につける。
	3	・体育理論 運動やスポーツの魅力と学び方	・新体力テスト:自分の体力について知る。 ・運動やスポーツの必要性和楽しさ、関わり方、学び方について知る。
6	6	・陸上競技(短距離走・リレー)	・短距離走・リレーの基本とスタート方法などの技能を身につけ、ルールを理解し、記録を測定する。
7	6	・水泳	・クロール・平泳ぎの技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳ぐことができるように練習する。
	10	・球技(バレーボール)	・バレーボールの基本となるパス、トス、サーブなどの技能を身につけ、ルールを理解し、ゲームを楽しむ。
	6	・保健分野 健康の成り立ち(1) 運動と健康(1) 食事と健康(1) 休養・睡眠と健康(1) 体の発育・発達(1) 呼吸器・循環器の発育・発達(1)	・マットを使って、今自分にできる技を確認し、その技がよりよくできるように練習する。また、新しい技に挑戦し、その技能を高める。 調和のとれた生活・心身の発達と心の健康 ※保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
9	10	・器械運動(マット運動)	・健康とは何かを理解し、どうすれば健康でいられるかを考えながら、調和のとれた生活をめざす。
10	10	・ダンス	・リズムダンスの踊りを通して、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊る。
11			
12	8	・武道(剣道)	
1	8	・陸上競技(長距離走)	・剣道の基本動作(構えと体さばき、打ち方と受け方)を学ぶ。 ・長距離走では、一定の長い距離を走る中で、自分に合ったペースを見つけ最後まで走りきれる力をつける。
	10	・保健分野 生殖にかかわる働き成熟(2) 性への関心と行動(1) 知的機能と情意機能の発達(1) 社会性の発達と自立(1) 自己形成(1)欲求とその充足(1) 心と体のかかわりとストレス(1) ストレスへの対処のしかた(1) リラクセーションの方法(1)	心身の発達と心の健康について ※保健分野については、週に1時間程度のペースで教室で学習します。
2	8	・球技(バドミントン)	・自分や他者の心と体がこれからどうかわっていくのか、心身の発達の道すじや心の健康についての理解を深める。
3	8	・球技(サッカー)	・バドミントンの基本となるサービス、ストロークの技能を身につけラリーを楽しむ。 ・サッカーの基本となるパス、ドリブル、シュートの技能を身につけ、ルールを理解しゲームを楽しむ。
計	105		

※内容が前後する場合があります

教科	技術	学年	1 年	標準授業時数	35 時間(週 1 時間)
----	----	----	-----	--------	---------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについての理解を深める。 (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	○ 材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術に関する科学的な原理・法則、技術の基礎的なしくみを理解し、それらに関わる技能を身に付ける。 ○ 生活や社会における問題を見だし、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などの多面的・多角的な視点から、長所・短所の折り合いをつけるという技術的な見方・考え方ができる。 ○ 技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会における技術に関わる問題を解決することができる。 ○ よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力と、社会の発展に向けて技術を工夫し創造しようとする態度を身に付ける。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	✓ 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付けているか。 ✓ 技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているか。
		思考力、判断力、表現力	✓ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定、解決策を構想できるか。 ✓ 解決策を製作図等に表現し、試作等で具体化できるか。 ✓ 実践を評価・改善し、課題を解決できるか。
		主体的に学習に取り組む態度	✓ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度が身についているか。
	評価の方法		○定期試験 ○提出物 ○活動観察 ○作品等

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		・教科書(開隆堂) …3年間使用 ・授業で配布するプリント
	学 習 形 態		教室や実習室(木工室や金工室、コンピュータ教室)での一斉授業やグループ活動(実技を含む)を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	① 授業道具(教科書、学習ノート、プリントなど)を忘れない。 ② 板書や必要事項を整理してノートを取り、その他大切だと思うことをメモする。 ③ 作業内容や手順について理解する。分からないところがあれば積極的に質問する。
		家 庭	① 授業で学習したことを復習する。 ② 疑問点をもって授業に臨む。 ③ 提出物の期限は必ず守る。

○学習内容…【内容A 材料と加工の技術】【内容B 生物育成の技術】

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	1 2	【ガイダンス】 B—① 生活や社会と生物育成の技術 ・生活や社会を支える生物育成の技術 ・トマトの苗植え	○3年間の学習の見通しをもつ ○生物育成の技術の意味とその目的、私たちの生活や社会における役割について理解する
5	10	D—① 情報とコンピュータ ・コンピュータの構成 ・コンピュータの機能と装置	○コンピュータの構成する装置の種類や役割を理解する ○ソフトの種類と役割を理解する
6		D—③ 情報の表現と伝達 ・インターネットの使い方	○通信機能を利用するときの情報モラルを守る
7		・文書の作成 (文書の装飾の仕方)	○インターネットでトマトの育て方を調べる ○トマトの育て方の文書をつくる
9	3	D—③ 情報の表現と伝達 ・ペイントによる画像加工	○図形を描いたり、文字を入れて画像加工を行う
10	4	D—③ 情報の表現と伝達 ・表計算とグラフの作成	○表を装飾し、関数を用いて表計算を行う ○グラフを作成し、グラフを装飾する
11 12	7	D—③ 情報の表現と伝達 ・トマト日記の作成	○加工した画像とグラフの入ったトマトの観察日記をする。
1 2	5	D—③ 情報の表現と伝達 ・GIF ファイルの作成	○画像加工を行いながら、GIF ファイルの作成を行う
3	2	D—③ 情報の表現と伝達 ・プレゼンテーションソフトの利用	○1年生での思い出をプレゼンテーションソフトを利用して、作成する。
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	家庭	学年	1 年	標準授業時数	35 時間(週 1 時間)
----	----	----	-----	--------	---------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	○3年間の学習の見通しをもち、自立と共生を目指す。 ○家庭や家族の基本的な機能と家庭生活と地域のかかわりを考える。 ○成長や健康によい食事について考える。 ○目的に応じた衣服とは何かを考える。 ○大切な衣服をいつまでも身につけるために知る。 ○こちよい住まいの工夫を見つける。 ○安全で安心な住まい方を目指す。 ○持続可能な衣住生活を振り返るための工夫を考える。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。
		思考力、判断力、表現力	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
		主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○活動観察 ○提出物（学習ノート、授業プリント、レポート等） ○製作物

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書 学習ノート ワークシート 布を用いた小物材料
	学 習 形 態		教室での一斉授業や、グループ学習（課題に対する意見交流、作業等）を取り入れた形式で行います。
	学 習 の て び き	学 校	授業では①興味を持って授業に参加しましょう。 ②積極的に発言・質問をしましょう。 ③積極的に実験、実習に取り組みましょう。 ④プリントのまとめをきちんとしましょう。
		家 庭	◎家庭の仕事を行うことが、家庭科の一番の実践学習になります。意欲的に家庭の仕事を行いましょ。う。 ◎新聞・ニュース・衣生活、住生活に関する番組なども活用し、最新の情報を得て自分の生活に生かしていくようにしましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	2	オリエンテーション ガイダンス 【自分の成長と家族・家庭生活】	・中学校家庭科の学習内容について知る。 ・これまでの成長とこれからの自分を見通す。 ・自分の成長と家族や家庭生活・地域の人々とのかかわりについて考える。
5	3	【食事の役割と食習慣】 【栄養素のはたらき】 【6つの（基礎）食品群】	・食生活を振り返り、食事の役割を理解する。 ・栄養素の種類とはたらきを理解する。 ・6つの食品群の特徴を理解し分類できる。
6	4	※食生活に関するレポート	・中学生の時期の栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について知る。 ・栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質を知る。
7 8 9	7	【目的に応じた衣服の選択】 【日常着の活用】 【日常着の手入れ】 【持続可能な衣生活】	・衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択を工夫することができる。 ・衣服の計画的な活用を考え、適切な選択について考えることができる。 ・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考えることができる。 ・持続可能な衣生活を目指す。
10 11	7	【住まいの働きとこころよさ】 【安全な住まいで安全な暮らし】 【持続可能な住生活】	・家族の生活と住空間の生活が分かり、住居の基本的な機能を知る。 ・家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫することができる。 ・持続可能な住生活を目指す。
12 1 2 3	12	【布を用いた製作】	・布を用いた小物の製作を通して生活を豊かにする小物づくりの基礎を学習する。 ・自分で考え工夫し、作品を仕上げる。
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	英語科	学年	1 年生	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	-----	----	------	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。 (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。 (4) 英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

○評価について

評 価 点 数	観 点	知識及び技能	学んだ知識と新しく獲得する知識を深く理解し、学習や生活に活かすことができる。(言語使用の正確さ) [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題などについて 聞く・読む：内容を捉える技能を身に付けている。 話す：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、話したり伝え合ったりする技能を身に付けている。 書く：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、または正確に用いて書く技能を身に付けている。
		思考力・判断力・表現力	習得した知識・技能を活かして必要な情報を判断し、まとめたものを表現することができる。(言語使用の適切さ) コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、 聞く・読む：必要な情報や概要、要点を捉えている。 話す：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、話したり伝え合ったりしている。 書く：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて書いている。
		主体的に学習に取り組む態度	自ら進んで学習の目標を持ち、自分の進め方で正しいと考え改善することができる。 聞く・読む：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手や書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて聞こうとしたり読もうとしたりしている。 話す：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしたり発表したりしようとしている。 書く：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて書こうとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○授業中の活動観察(言語活動・音読) ○パフォーマンス(スピーキング[発表・やり取り]・スキット・スピーチなど) ○単元テスト(文法・単語など)

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		ONE WORLD English Course I 教育出版 ・ エイゴラボ I 正進社
	学 習 形 態		一斉・ペア・グループ
	学 習 の て び き	学 校	・準備物をそろえて授業に臨み、先生や友達の話や活動などに集中しましょう。 ・英語を言うときは、お腹から声を出しはっきり聞こえる声で発声しましょう。 ・唇や舌の形に注意して、英語らしい音になるようにしましょう。 ・間違いをおそれず、積極的に発言・質問をしましょう。 ・言語活動では、積極的に英語を使い先生や友達に自分の考えを話しましょう。 ・ファイルを必ず用意し、配布されたハンドアウトはすべて整理、保存しましょう。
		家 庭	・家庭学習として、毎日30分は教科書を読んだり、英文をノートに書いたりしましょう。本文は暗誦できるまで練習しましょう。 ・テレビやラジオの英語番組を視聴し、英語力をつけましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	5	Springboard アルファベット, ローマ字表(ヘボン式) Classroom English	授業の中で必要なことを伝えたり、質問したり、指示に応じたりすることができる。
5	13	Lesson 1 Hello, New Friends Lesson 2 Talking with Friends	自己紹介をしたり、クラスメートの自己紹介のスピーチを聞いて要点をとらえたり、自分の知りたいことを質問することができる。 学校生活や家庭生活に関わる身近な事柄について、即興でやりとりをすることができる。
6	13	Lesson 3 My Favorite Person Lesson 4 Our Summer Stories	お気に入りの有名人を紹介し、友達が紹介している有名人についても要点を聞き取ることができる。 夏休みの思い出を伝え合うことができる。
7	14	Tips ① for Writing	自分の行動や感想を記録するために、事実や気持ちなどを整理し日記を書くことができる。
8	4	Reading 1 Fox and Tiger	登場人物の心情を理解しながら物語を読むことができる。
9	14	Lesson 5 School Life in Two Countries Tips ② for Listening	ビデオ通話などで、校内で現在起きていることや友達の様子などを話すことができる。 大事な情報をしっかりと把握するために、口頭で行われる説明の内容から、必要とすることを聞き取り、メモすることができる。
10	14	Lesson 6 Lunch in Chinatown Tips ③ for Reading Useful Expressions	食事などの場面で必要なやりとりをしたり、食べ物などを話題にして、簡単な語句や文を用いて会話を継続できる。 代名詞を理解しながら文章を読むことができる。 飲食店で用いる特有の表現を使うことができる。
11	14	Lesson 7 Symbols and Signs Project 1	標識やピクトグラムの説明を聞いて理解したり、説明したりすることができると共に、他の学校と比較するためにルール等を聞き取り、自校のルールとの相違点などを説明したりすることができる。 地域や学校で必要なことを相手に伝えるために、独自の標識を考えて発表することができる。
12	8	Reading 2 An Old Woman and a Dog	物語を、引用符の使われ方の理解を基に、誰が何と言ったのかを捉えながら読み進めることができる。
1	14	Lesson 8 Holiday in Hokkaido Tips ④ for Listening	アヤの冬休みの予定を聞いたり、訪れる場所の記事を読んだりして、内容や感想を伝えあうことができる。 自分へのメッセージを聞いて、相手の意向を捉え、適切に返事を書くことができる。
2	14	Lesson 9 Helping the Planet Project 2	身近な問題を考えるために、環境問題についての話を聞いたり読んだりして、要点をとらえたり、考えたことや感じたことを話したり書いたりすることができる。 クラスのことをより知るために、アンケート調査を実施し、その結果を発表したり、クラスメートの発表を聞いて内容をとらえることができる。
3	13	Reading 3 The Golden Dipper Further Reading The Letter	物語を読んで、登場人物の心情を理解しながら概要を捉える。
計	140		

【注意】 内容が前後することもあります。